

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071000453		
法人名	医療法人敬英会		
事業所名	グループホーム幸楽の里	【ユニット名:白樺】	
所在地	和歌山県橋本市隅田町山内1919-3		
自己評価作成日	平成26年8月30日	評価結果市町村受理日	平成26年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3071000453-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年9月29日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念すべてが地域密着型サービスの意義をふまえたものにはなっていないが一部についてはその意義を理解し共有出来ていると思う。簡潔な文言での理念ではないが、理念に添って実践できるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会、盆踊りへの参加は毎年の行事になっている。自施設へのクリスマス会招待は地域の参加希望者が多いとお聞きしている。今年は新たに菜の花祭りに参加させて頂き、漬物の販売のお手伝いをさせて頂いたが日常的に交流は出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議をとおして、勉強会、予防体操の依頼があり、地域の方30名程参加された。法人として地域貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、老人会会長、介護保険課長、法人施設職員の構成で会議を行っているが、家族様の参加はない。地域、施設のそれぞれの、現状報告を行い、介護保険に関する新しい情報は介護保険課長様より情報を頂いたり、意見、情報交換は出来ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡を密に取る事はないが、必要に応じて、介護保険の担当者、いきいき長寿社会の方と連絡を取っている。市からの要望で協力出来る事は、積極的に取り組んでいる。いきいきからのボランティアさんとは利用者様との関係も良好である。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で身体拘束しない重要性を確認している。見守りを重視し、昼間玄関の施錠はしていない。何か問題があるときは、職員皆で話し合いを行っており、言葉による拘束も職員間で注意をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間でよく話し合い、又職員の行動をよく見る毎日の中で見過ごされる事がないよう、しっかり対応し防止に努めている。		

グループホーム幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それらの対応は管理者が行っている。個人的な資格習得で勉強の機会がある職員もあるが、自施設での必要性は感じていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、家族様、利用者様の不安や希望を聞きながら行い、解約時についても、施設側の出来る事、出来ないことの説明を行い両方相違の元に話を進めている。料金の改定時には先にお知らせを送り、来所持に再度説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様へは面会時、ケアプラン説明時に利用者の様子を伝える時に要望や意見をお聞きしている。利用者様の希望についても、解決できることは早急に対応している。外部者へ表せる機会は設けることは出来ていない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のフロア会議に向け、話し合いたい事を事前に職員それぞれが書き出集約した内容に添って話を進めている。月一度の会議に限らず早急に解決が必要な件に関してはその都度その日勤務の職員で話し合い、申し送りをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行動効果表の取入れが始まり、自己レベルに応じ求められるレベルが明確になった。まだ、うまく起動に乗っているとは言えないが、努力に応じ給料のステップが望める様になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら当法人にて、初任者研修の資格を取れるシステムがある。又、介護福祉士や、ケアマネの試験対策の勉強会が行われている。新人研修は毎年行われているが、その他の研修は定期的には参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会で同業者と会う機会はあるが、訪問などの交流は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートをしっかりと熟知したうえで本人の訴えを傾聴し職員同士が共有する事で安心して生活が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所されることで家族の関係性が切れる事のないように、外出、外泊支援、面会をお願いし、施設での生活の状態を蜜に報告する事で不安を軽減できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所を希望されている家族様に対しても、本人様の状態、意向、家族様の希望を傾聴し、在宅にての生活を継続しつつ、家族様の負担を軽減できるように他のサービスを紹介する事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干しや、たたみ、お盆拭き等出来る事は何でも職員と一緒にする事で家庭生活を感じて頂けるよう努め、感謝の気持ちを伝え役割や達成感を感じて頂けるよう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の可能な範囲で外泊、外出支援、受診のお願いをしている。クリスマス会、本人の誕生日にも参加の声を掛けさせて頂くが、決まった家族様の参加になっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	歩行可能な利用者については家族様の支援にて継続を出来ている。昔話や小さい頃の思い出等本人の話の傾聴に努め又、話題を振ることで思い出される事もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握し個々のこだわりが現れる場面ではそれぞれに役割分担をお願いし、食事の時は座る席に配慮する事で関係性が保たれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院にて契約が中断、終了した場合でも、お見舞いに行き家族様の今後についての相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度化の中、一人ひとりの暮らしの希望に添えているかは難しいが、本人の状態に合わせ出来る限り穏やかな暮らしが出来るようにスタッフ皆で取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用時には詳しく生活歴をお聞きし情報を得ている。フェイスシートをしっかりと熟知したうえで、本人から新たな情報を得たり、家族様にお聞きしたりする事でこれまでの生活を知ることが出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々に個別記録を残している。変化や注意が必要なことは、口頭による申し送り、記録に残す申し送りをし、職員間で把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別に担当者を決め、月1回のフロー会議に課題や意見を出し合い介護計画に反映させている。家族様からの要望をお聞きしても意見される家族様は少ないが要望がある場合は速やかに介護計画に取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に一日の様子を記録に残し、申し送り等で情報を共有している。介護計画の見直しに活用することもあるが、記録の内容に職員の力量の差があり記録力の力をつけていく必要がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科、訪問理容、受診の支援、新規入所時荷物の運搬、退所時の不必要な物の廃棄処分等、出来る限りの要望に応える用になっている		

グループホーム幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区の祭りや行事に参加、スーパーへの買出し、月一回のボランティアさんの来所、法人の祭りには、地域の学生や多くボランティアさんが応援に來られる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の家族や、本人希望にてかかりつけ医を決めている。受診が難しい状態時に成られた時は、家族さんと協議の上で往診の支援を受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に來所持には状態の報告、相談を行って折り、必要に応じ主治医に報告して頂いている。又、自施設の看護師とも連携をとり対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けて、利用者の状態を自ら確認すると共に、ソーシャルワーカーさんからの情報提供を蜜に行い入院にてのADLの低下に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態と時期を見て話し合いを行っている。利用者の状況の変化に合わせ、家族様、時には主治医を含め、話し合いを重ねている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練とまでは行かないが、避難訓練の後に消防士より心肺蘇生AEDを使い講習を行った。急変時の対応は特に夜勤者が独り立ちをする時にしっかり説明している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年二回実施に努めている。今年には米を洗うのに水がどれくらい必要なのかを知らべ、無洗米の購入に至った。地域の区長さんが消防団長ということもあり心強い協力を期待できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉掛けに努めているが、親密な関係性から馴れ合いにならないように、職員間で指摘しあい気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の場面でお聞きしても遠慮されるのか「どっちでもいい」と言う返事が多いが、本人の好みや性格を知ること、意に添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間、入浴が出来る時間は生活パターンとして決まっているが、日々の過ごし方はのんびりと時間が流れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己主張できる方は朝の更衣時にお聞きし服を選んでいる。訴えが難しい方も、アンバランスな格好にならない様に、お持ちの服でコーディネートしおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事のお手伝いは難しいが、干し柿の皮むき、豆から身を出す作業等軽作業のお手伝いをお願いする事もある。食後のお盆拭き、机を拭いたりと協力をお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は週5日は必ずお魚メニューを取り入れ、同じメニューが重ならないように気をつけている。月二回は体重測定し肥満防止にも努めている。本人の状態に応じ、食事形体を臨機応変に対応し、水分量は一日1ℓを目標にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの実施、自分で出来る方は声掛け、見守りを行い支援漏れが無い様に、個人記録に記入を行っている。週一回の歯科衛生士による口腔ケア、必要であれば歯科医に見ていただいている。		

グループホーム幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録を確認し、個々の排尿パターンに合わせトイレ誘導を行っている。本人が快適に過ごせる様に個人に合わせパットも数種類使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無は排便表にて確認し、便秘状態が続かないようにしている。服薬にて下痢になる方は牛乳の提供等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前、午後と入浴の時間を設け、二日に一回の間隔で入浴していただいている。体調を考慮しながら好きな方はゆっくりと入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣や体調に合わせて、お部屋で休む時間や声掛けにてのお昼ね支援している。日中はカーテンにて光の調整、適度に布団を干し、気持ちよく眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に服用している薬は薬箱に薬名、用法が記入されたものを貼っており服薬の変更があるときは、申し送りノートに記入把握が出来るようにしている。服薬は飲み込みまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担の無いように考慮しながら出来る事のお手伝いをお願いしつつ、積極的に自らお手伝いして下さる事もあり、感謝の気持ちを必ず伝える様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に応じての対応は難しい状態であるが、自宅への外出、旅行に行かれる方、家族様の支援を得ている。		

グループホーム幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現利用者はお金の所持はされていない。何時もの買い物では回りの目もあり、積極性が無くなる様子。近日の祭りにてお金で商品を購入する支援を行った。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話支援以前はあったが、今は希望者なし。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は大きな窓にて、外の景色がよく見え、四季の木々を楽しむことができる。室温は室温計にて確認し、快適な温度になるように、配慮し、玄関には季節の花が生けられ来客の目を楽しませている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	洗面台の前ソファはトイレ後の休憩や、一人で過ごす場所として落ち着く場所になっている様子が伺える。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新規入所時には使い慣れたものをと家族様には説明をさせて頂いている。それぞれ、心地よく過ごせるお部屋になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の同線上に歩行の邪魔になるような事がないように環境に配慮している。トイレの場所、自立の方はほぼ理解されているが時折解らなくなる事がある、その時はその場所まで案内している。		